2026 年 3 月期 決算説明会 質疑応答要旨

開催日： 2026 年 4 月 30 日（木）17：00～17：30
発表者： 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社　執行役員　前田 祥治

Q: 外株の収益について伺いたい。1 月以降、月次でどのように推移しているのか、教えてほしい。4Q トレーディング損益の減少が、同業他社比で見ても大きいように見えるので、その要因も合わせて教えていただきたい。例えば戦略的に日本株、その他プロダクトを進めたということでもなく、純粋に外株フローが落ちたというイメージか。

A: 外株収益は、1 月までは 3Q 同様にかなり好調であったが 2 月に米国株式市場が落ち込み、その結果 2 月に一気に落ち込んでいる。1 月と比べ 3 割程度落ち込んでいる。3 月についてはその状況が継続しており、取引フローが減った結果、トレーディング損益の株券等のうち外株部分が減っており、委託手数料についても 2 月 3 月は落ち込んだ状況となっている。
一方、米国株式市場が不安定になったのでお客さまの投資意欲がどちらかというと削がれるかと思ったが、そうではなく投資意欲が国内株の方に振り向いたこともあり、結果として、営業員からお客さまに積極的に日本株のご提案をした部分もあったと考えている。ポートフォリオ全体で提案しており、そういう中でお客さまの資金が外株から国内株にシフトしていたとみている。下がったタイミングでも底値と判断した方は追加の買いが入るケースもあったので、国内株については株価が不安定な 3 月においても落ち込みは限定的だったと見ている。

Q: エターナル売却で、売却益を計上されていると思うが、戦略的な背景を教えていただきたい。

A: エターナルについては、有人店舗にて保険販売を行うビジネスモデルであり、弊社の対面証券のビジネスモデルとシナジー効果が生まれるのではないかという考えで買収した背景がある。ただ、時間の経過とともにその部分でのシナジー効果があまり見込めないという判断となり、このタイミングで売却することとなった。

Q: CHEER 証券のソフトウェア資産の減損があったが、戦略的な変化が要因なのか、あるいは、純粋に CHEER 証券の収益が当初の事業計画から下振れてしまったからなのか、この点について教えていただきたい。

A: CHEER 証券については前々から、事業計画を下回っている話があり、減損リスクが高まってきたのは事実である。ただ、これまでも新たなアライアンス等で、新たな収益が生まれてくると見ていた。しかし、足元の状況として計画通りに進んでいない実態もあり、今一度 CHEER 証券の事業計画等について検討を進めているところである。こうしたことも踏まえ、保守的な観点もあり、このタイミングでソフトウェア等の固定資産について減損する決断に至った。

※本資料は、2026 年 4 月 30 日開催の「2026 年 3 月期 決算説明会」における発言に基づいて作成されたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。なお、本資料で使用しているデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。